

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんの通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（組織標本）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、保管されている試料（組織標本）を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

急性肝不全例および正常例の肝組織におけるケモカイン受容体 **CXCR4** の発現制御に関する検討

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究責任者】 杉山隆（病院長）

【研究代表者】 伊藤千尋（愛媛大学医学部 肝胆膵・乳腺外科 医員、分子病理学教室 大学院生）

【研究の目的】

肝臓は再生力の高い臓器ですが、ケモカイン **CXCL12** という因子の2つの受容体のうち、**CXCR4** の発現が **CXCR7** の発現を上回る場合には肝再生が阻害され線維化の進行や肝不全が起こると言われています。そのため、**CXCR4** がどのように発現するのか詳細に解明することが重要と考えます。肝不全の肝臓と正常な肝臓において **CXCR4** の発現状態の違いはどうか、**CXCR4** の遺伝子発現を調節する領域の **CpG** という配列のメチル化の状態がどのように異なるのか、培養細胞の実験だけでは分からないことを明らかにするために実際の組織において解析を行いたいと考えています。

【研究の方法】

（対象となる患者さん） 当院肝胆膵移植外科において2018年1月～2022年12月の間に急性肝不全に対して生体肝移植を施行されたレシピエントの方の摘出肝の組織検体を肝不全例、同期間に肝臓を提供した健常ドナーの方のグラフ

ト肝のゼロ生検検体を正常例として解析を行います。
それぞれの検体に対して、HE染色および下記の免疫組織染色を行います。
CXCR4, CXCR7, 8-OHdG, αSMA, AXIN2, CD31, CD34, CD68, CK7, CK19, CyclinD1,
Endomucin, ERG, FactorVIII, Hep par 1, HNF-1β, Ki-67, MeCP2, MUC1, SOX9, β-catenin

また、組織検体における CXCR4 遺伝子の発現調節領域の特定の部位を増幅するプライマーを用いたメチル化特異的PCRおよびバイサルファイトシーケンスにより、メチル化の状態やその部位などの確認を行います。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、今回解析する CXCR4 の発現調節領域のメチル化の有無は後天的に（エピジェネティックに）変化するものとされており、将来的な疾病や子孫へ受け継がれる遺伝的特徴の予測には直接つながらないと判断しております。研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>愛媛大学医学部 肝胆膵・乳腺外科学講座 伊藤千尋

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部 肝胆膵・乳腺外科学講座 伊藤千尋
791-0295 愛媛県東温市志津川 454
Tel: 089-960-5327